

学位論文の要約

三 重 大 学

所 属	甲 三重大学大学院医学系研究科 生命医科学専攻 臨床医学系講座 消化管・小児外科学分野	氏 名	森 浩一郎
-----	---	-----	-------

主論文の題名

Proteomics analysis of differential protein expression identifies Heat shock protein 47 as a predictive marker for lymph node metastasis in patients with colorectal cancer

(プロテオミクス解析で同定した Heat shock protein 47 の大腸癌における発現はリンパ節転移を予測するマーカーである)

Koichiro Mori, Yuji Toiyama, Kohei Otake, Hiroyuki Fujikawa, Susumu Saigusa, Junichiro Hiro, Minako Kobayashi, Masaki Ohi, Koji Tanaka, Yasuhiro Inoue, Yuhko Kobayashi, Issei Kobayashi, Yasuhiko Mohri, Ajay Goel, Masato Kusunoki

International Journal of Cancer

Received: September 7, 2016

Accepted: November 24, 2016

主論文の要約

【背景】

大腸癌患者においてリンパ節転移を示唆するバイオマーカーを検索することは、大腸癌の治療方針を決定するために有用である。

【対象・方法】

大腸癌患者においてリンパ節転移を示唆する有用なバイオマーカーを検索するためiTRAQ法を用いたプロテオミクス解析で候補蛋白を同定した。さらにこの候補蛋白を用いて、その臨床病理学的意義（特にリンパ節転移）、再発や予後について検討した。

【結果】

大腸癌リンパ節転移を示唆する可能性がある60個の蛋白から、癌特異性、転移に関する蛋白であるHeat Shock protein 47 (HSP47)が最も有用な蛋白であると考えられた。HSP47陽性紡錘細胞数高値は有意にT3以深、リンパ節転移陽性、リンパ管浸潤陽性、脈管浸潤陽性、再発、高TNM stage

と相関した。HSP47陽性紡錘細胞高値群は有意に再発までの期間が短く、生存率の低下を認めた。多変量解析ではHSP47陽性紡錘細胞数高値が独立したリンパ節転移のリスク因子であり、再発規定因子であった。さらにHSP47陽性紡錘細胞数は有意にbudding scoreと相関していた。

【結語】

大腸癌間質のHSP47陽性紡錘細胞数高値は癌の悪性度やbuddingと関連し、リンパ節転移、再発や予後規定因子になる可能性が示唆された。